



2025

ブロッコリーカタログ

BROCCOLI CATALOG

株式会社 **ブロード**





目次



早生種

ルミナス	2 ページ	新商品	ア
プライム	3 ページ		ア
ファイター	3 ページ		ア
緑 竜 (りょくりゅう)	6 ページ		CR
すばる	7 ページ		側
まどか	7 ページ		

中生種

アーサー	4 ページ		ア
サミット	4 ページ		ア
深 碧 (しんぺき)	6 ページ		CR
むつみ	8 ページ		
改良緑炎	10 ページ		ア
直緑 93号	10 ページ		

晩生種

クリア	5 ページ		ア
ともえ	8 ページ		
すずか	9 ページ		



商品特性表・液肥紹介	11 ページ
ブロッコリーの栽培	12~14 ページ



…側枝収穫も可能



…アントシアンレス種



…根こぶ病耐病性



商品と播種期

作型表の栽培時期は目安としてご利用下さい。商品と播種期の選定については栽培地の気象条件や土質、その他を十分にご考慮の上、貴地に合わせた栽培を行って下さい。作型表の高冷地・冷涼地は北海道・長野県、中間地は埼玉県、平坦地は三重県、暖地は愛知県を目安として作成しております。



種子と責任

種子は播種後の栽培条件、天候等により、その結果が異なることがあり、結果不良の場合でも、補償はお買い上げ代金の範囲内とさせていただきます。独自に再加工（シードテープ、ペレット、コート等）された場合につきましては、責任を負いかねますのでご了承下さい。

新商品

アント
シアン
レス



105日タイプ

2,000粒
絵袋

シコート
5,000粒

濃緑花蕾で収穫作業性の良い
アントシアンレスの中早生種

ルミナス (BL-652)

特 性

- 平坦地での11月下旬～1月中旬収穫の栽培に適する。
- 花蕾は濃緑色で、締まりの良い豊円形となる。
- 草姿は立性で、花蕾位置が高い。
- 葉枚数が少なく、節間が広いため収穫作業や出荷調整作業が容易。
- 花蕾に紫色(アントシアン)が着色しない。

栽培のポイント

- 葉枚数が少ないため、病害虫により葉面積が減少しないように予防に努める。
- 草勢が弱いと花蕾の品質が低下する場合がある。定植後の活着を促し、草勢を強めに維持することで良品多収に繋がる。
- アントシアンレス種は肥切れにより花蕾の緑色が薄くなる場合がある。低温期の収穫となる場合は収穫まで肥効を切らさないよう管理を行う。

鳥取県
11月収穫

第72回 全日本野菜審査会
1等特別賞受賞

栽培地	月	8	9	10	11	12	1	2	3
中間地		●	●	●	●	●			
平坦地		●	●	●	●	●	●		
暖地		●	●	●	●	●	●	●	

●---● 播種期 ●---● 定植期 ■ 収穫期

アント
シアン
レス



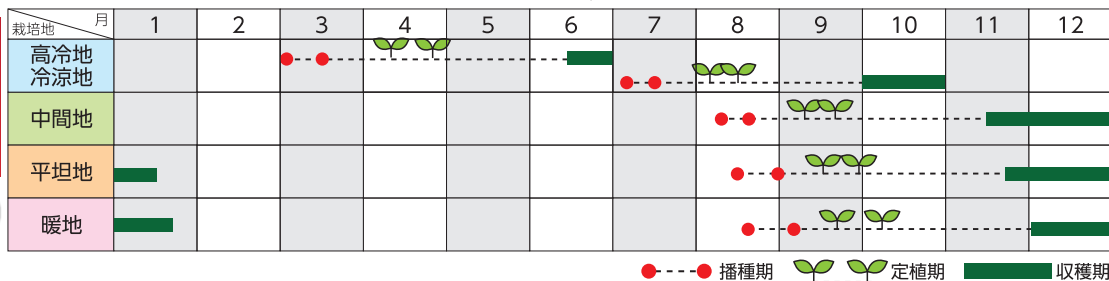
90日タイプ

2,000粒
絵袋

Ｌコート
5,000粒

第66回
全日本野菜審査会
1等特別賞受賞

長野県11月収穫



高品質アントシアンレス花蕾の早生種

プライム

特 性

- 平坦地の夏まき栽培で、遅まき・早どりの作型に適応する早生種。
- 高冷地・冷涼地の6月中下旬収穫、10月収穫の栽培に適する。
- 花蕾形状はスムーズなドーム型で蕾粒が細かく締まりが良い。
- 草姿は半開張性でややコンパクトな草型となる。
- 花蕾に紫色(アントシアン)の着色が無い。
- 高温期の収穫では死花の発生や、花蕾色が薄くなるなどの高温障害が発生する場合があるため、適期栽培を行う。
- 初夏どりの作型では、収穫時に茎が短くなる場合がある。定植時が低温・乾燥の場合は適宜被覆資材の活用や灌水を行う。

アント
シアン
レス

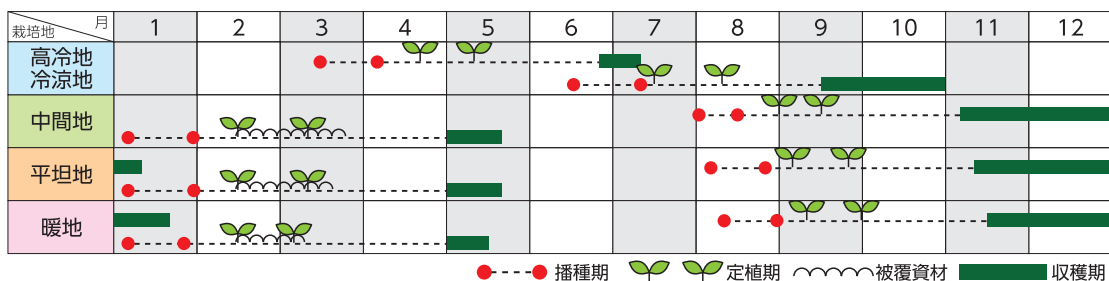


95日タイプ

100粒
小袋

2,000粒
絵袋

Ｌコート
5,000粒



収穫作業性の良いアントシアンレスの早生種

ファイター

特 性

- 平地での11月～12月収穫、5月収穫、高冷地・冷涼地の初夏及び秋収穫の栽培に適する。
- 花蕾は濃緑色の豊円形で締まりが良い。
- 草姿は立性で花蕾位置が高いため、栽培管理や収穫作業が容易。
- 花蕾に紫色(アントシアン)の着色が無い。
- 高温期の多肥栽培では茎に空洞が発生する場合がある。バランスのとれた肥料設計を行い、極端な肥効を避ける。
- 草勢が弱いと花蕾の品質が低下する場合がある。定植後の活着を促し、草勢を強めに維持することで良品多収に繋がる。



アント
シアン
レス

110日タイプ

100粒
小袋

2,000粒
絵袋

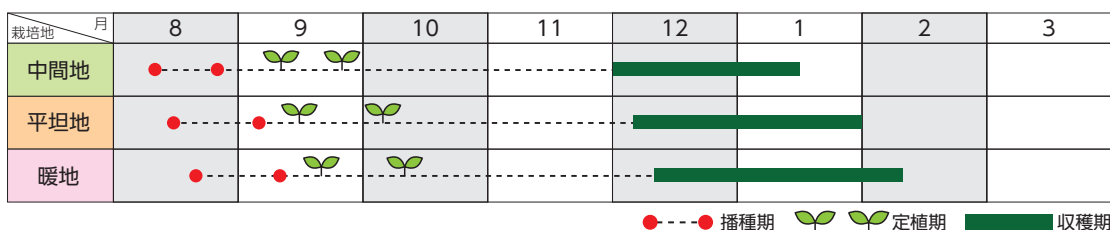
Ｌコート
5,000粒

高品質アントシアンレス花蕾の中生種

アーサー

特 性

- 平坦地での12月～1月収穫の栽培に適する。
- 花蕾はスムーズなドーム型で、蕾粒が細かく締まりが良い。
- 草姿は半開張性で、花蕾位置はやや低い。
- 花蕾に紫色(アントシアン)の着色が無い。
- 排水条件の良い圃場で能力を発揮する。水田などの排水性の悪い圃場では、高畝にするなどの排水対策を行う。
- 収穫時期が前進化すると、死花が発生しやすくなるので、無理な早まきは控え、適期栽培を行う。



アント
シアン
レス

120日タイプ

2,000粒
絵袋

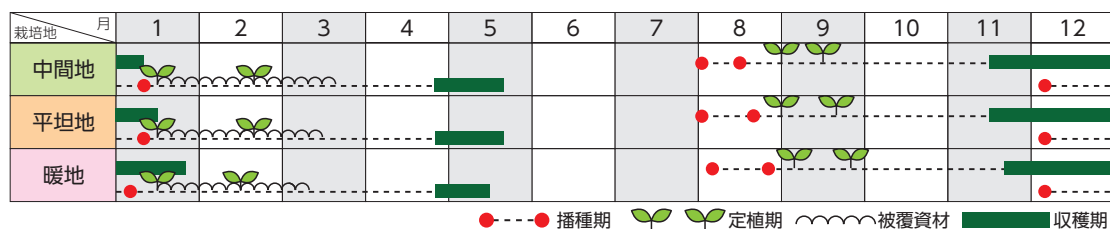
Ｌコート
5,000粒

適応性が広いアントシアンレスの中生種

サミット

特 性

- 平坦地での11月～1月収穫、5月収穫の栽培に適する。
- 花蕾形状はボリュームのあるドーム型となり、蕾粒が細かく締まりが良い。
- 死花の発生が比較的少なく、収穫後の棚持ちが良い。
- 草姿は半立性で根張りが強く、生育が旺盛。
- 花蕾に紫色(アントシアン)の着色が無い。
- 吸肥力があるため、草姿が大型になる場合がある。倒伏しやすくなるため、多肥栽培を避ける。
- 高温時の栽培で蕾粒の不揃い(キャッツアイ)が発生する場合があるため、適期栽培を行う。



第70回
全日本野菜審査会
1等特別賞受賞

鳥取県11月収穫

アント
シアン
レス



145 日タイプ

100 粒
小袋

2,000 粒
絵袋

コート
5,000 粒

高品質アントシアンレス花蕾の
晩生種

クリア

特 性

- 平坦地での 1 月～ 3 月収穫の栽培に適する。
- 花蕾は濃緑色でボリュームのあるドーム型となる。花蕾形状が安定し、秀品率が高い。
- 草姿は半開張性で、上部の葉の包葉性が強く花蕾が寒さから守られる。
- 耐寒性・低温肥大性に優れ、収穫揃いが良い。
- 根張りが良く馬力があるため作りやすく、幅広い作型で栽培が可能。

栽培のポイント

- 極端な早まきや収穫時期の前進化で茎が太くなり、花蕾の粒が少し粗くなる傾向があるので適期栽培を行う。
- 10 月以降の定植では茎が短くなりやすいので、植え遅れに注意する。遅い時期の定植となった場合は、初期生育を旺盛にして年内にしっかり株を作るようにする。
- アントシアンレス種は肥切れにより花蕾の緑色が薄くなる場合がある。本商品は比較的色彩抜けは少ないが、栽培期間が長くなるため、収穫まで肥効を切らさないよう管理を行う。

栽培地	8	9	10	11	12	1	2	3
中間地	●	●	●			■	■	■
平坦地	●	●	●			■	■	■
暖地	●	●	●			■	■	■

●---● 播種期 ●---● 定植期 ■ 収穫期

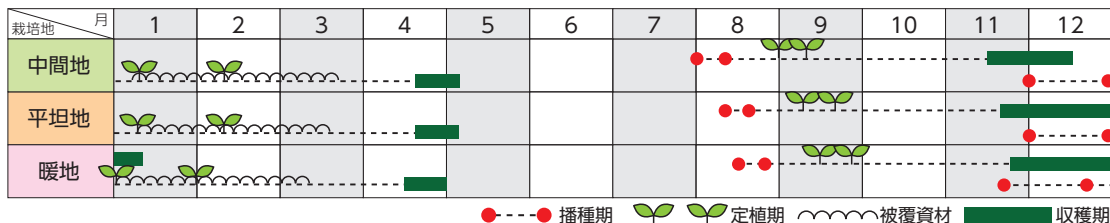


105日タイプ

2,000粒
絵袋

しコート
5,000粒

※耐病性とは通常の商品と比較して病気の発生程度が少ないことを表しています。薬剤防除、pH調整、排水性改善などの耕種の防除を併用しての栽培をおすすめいたします。



根こぶ病に耐病性をもつ重量花蕾の中早生種

りょくりゅう
緑竜

特 性

- 平坦地での11月下旬～12月収穫、4月収穫の栽培に適する。
- 根こぶ病に耐病性をもつ。
- 花蕾は重量感のあるドーム型で締まりが良い。
- 草姿は半開張性で、比較的倒伏しにくい。
- 高温時の多肥栽培では茎の空洞化や蕾粒の不揃いが発生する場合がある。極端な早まきや多肥栽培を避け、適期栽培を行う。
- 厳寒期の栽培や根傷み等で花蕾に紫色（アントシアン）が着色する場合がある。

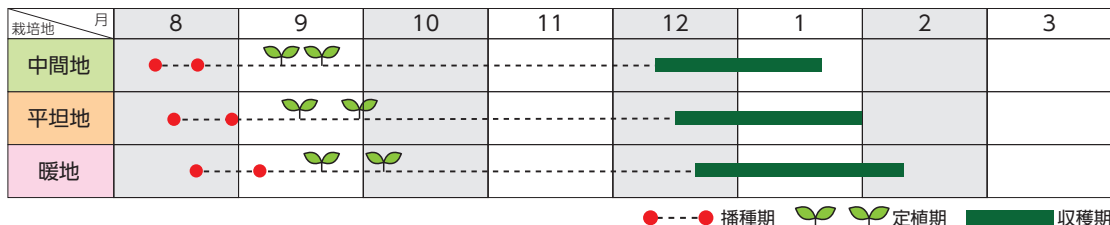


120日タイプ

2,000粒
絵袋

しコート
5,000粒

※耐病性とは通常の商品と比較して病気の発生程度が少ないことを表しています。薬剤防除、pH調整、排水性改善などの耕種の防除を併用しての栽培をおすすめいたします。



根こぶ病に耐病性をもつ低温肥大性に優れる中生種

しんぺき
深碧

特 性

- 平坦地での12月中旬～1月収穫の栽培に適する。
- 根こぶ病に耐病性をもつ。
- 花蕾はドーム型で締まり良く、低温肥大性に優れる。
- 草姿は半開張性で根張りが良い。
- 高温時の多肥栽培では茎の空洞化や蕾粒の不揃いが発生する場合がある。極端な早まきや多肥栽培を避け、適期栽培を行う。
- 花蕾に紫色（アントシアン）の発生は比較的少ないが、厳寒期の栽培や肥料切れ等のストレスで濃く着色する場合がある。

側枝
収穫も
可能



95日タイプ

100粒
小袋

20mℓ絵袋

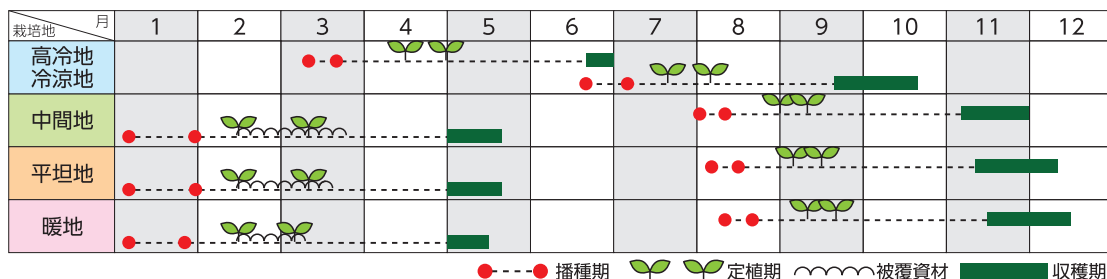
しコート
5,000粒

作りやすい早生種の定番

すばる

特 性

- 平坦地での11月～12月収穫、5月収穫、高冷地・冷涼地の初夏及び秋収穫の栽培に適する。
- 花蕾はスムーズなドーム型で形状の乱れが少ない。
- 草姿は半開張性でややコンパクトな草型となる。
- 定植時期の高温や乾燥、多肥栽培や根傷み等のストレスで、側枝が多く発生する場合がある。定植後は活着を促し、ストレスを軽減させることで側枝の発生を抑える。
- 厳寒期の栽培や根傷み等で花蕾に紫色（アントシアン）が着色する場合がある。



105日タイプ

2,000粒
絵袋

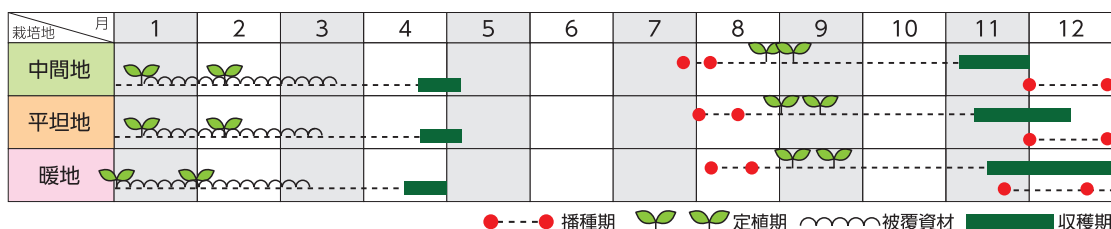
しコート
5,000粒

花蕾の安定感が優れる中早生種

まどか

特 性

- 平坦地での11月～12月収穫、4月収穫の栽培に適する。
- 花蕾は形状が良く、細粒で締まりが良い。
- 草姿は半開張性で側枝の発生が極めて少ない。
- 高温期の栽培や根傷み等のストレス受けると、死花が発生する場合がある。秋冬作では早まき、春作では遅まきを避け適期栽培を行う。
- 厳寒期の栽培や根傷み等で花蕾に紫色（アントシアン）が着色する場合がある。





125日タイプ

2,000粒
絵袋

Ｌコート
5,000粒

根張りが良く作りやすい中生種

むつみ

特性

- 平坦地での12月～1月収穫の栽培に適する。
- 花蕾は豊円形でボリュームがあり、茎も太く収量性がある。
- 根張りが良く栽培しやすい。
- 多肥栽培では茎に空洞が発生する場合がある。バランスの取れた肥料設計を行い、極端な肥効を避ける。
- 厳寒期の栽培や花蕾肥大期の肥料切れにより花蕾に紫色(アントシアン)が着色する場合がある。

栽培地\月	8	9	10	11	12	1	2	3
中間地	●	●	●		■	■		
平坦地	●	●	●		■	■		
暖地		●	●	●	■	■		

●---● 播種期 ●---● 定植期 ■ 収穫期



145日タイプ

100粒
小袋

2,000粒
絵袋

Ｌコート
5,000粒

花蕾の締まりが良く低温肥大性に優れる晩生種

ともえ

特性

- 平坦地での1月～3月収穫の栽培に適する。
- 花蕾は細粒で締まりが良く、ハイドームで重量感がある。
- 草姿は半開張性でややコンパクトな草型となる。
- 低温肥大性に優れる。
- 極端な早まきや収穫時期の前進化で茎が太くなり、花蕾の粒が少し粗くなる傾向があるので適期栽培を行う。
- 厳寒期の栽培や花蕾肥大期の肥料切れにより花蕾に紫色(アントシアン)が着色する場合がある。

栽培地\月	8	9	10	11	12	1	2	3
中間地	●	●	●			■	■	■
平坦地	●	●	●			■	■	■
暖地		●	●	●	■	■	■	

●---● 播種期 ●---● 定植期 ■ 収穫期



200 日タイプ

2,000 粒
絵袋

しコート
5,000 粒

端境期にとれる極晩生種

すずか

特 性

- 平坦地での 3 月中下旬収穫の栽培に適する。
- 花蕾は濃緑色でスムーズなドーム型となる。
- 3 月中旬以降の気温上昇期でも花蕾が緩みにくい。
- 根張りが強く生育旺盛で、耐寒性に優れる。
- 草姿は立性で栽培管理がしやすく、収穫作業性も良い。

栽培のポイント

- 栽培期間が長くなるため、肥効が持続するように適宜追肥を行う。
- 収穫時期に気温が上昇、多雨が重なると病害が発生しやすくなる。密植を避け、風通しを良くするなど予防を中心とした対策で、病害の発生を軽減させる。
- 草勢が強いため、早まきをすると空洞が発生する場合がある。早まきは控え、適期栽培を行う。また 10 月以降に老化苗定植をすると、株が十分できずに花蕾品質が低下する場合がある。特に遅い時期の植え遅れに注意する。
- 湿害や遅霜等のストレスで花蕾に紫色（アントシアン）が着色する場合がある。

栽培地	8	9	10	11	12	1	2	3	4
中間地		●	●	●				■	
平坦地		●	●	●				■	
暖地		●	●	●				■	

●---● 播種期 ●---● 定植期 ■ 収穫期

アント
シアン
レス



120日タイプ

100粒
小袋

20ml絵袋

しコート
5,000粒

アントシアンレス種为先駆け

改良緑炎

特 性

- 平坦地での12月～1月収穫の栽培に適する。
- 花蕾は厚みがあり、粒も細かく揃い、締まりが良い。
- 草姿は立性で栽培管理がしやすい。
- 通常より細根が少ないので、土壌条件の良い畑地を好む。
- 花蕾に紫色(アントシアン)の着色が無い。

2025年度
販売終了

栽培地	月	8	9	10	11	12	1	2	3
中間地		●	●			■	■		
平坦地		●	●	●		■	■		
暖地		●	●	●		■	■		

●---● 播種期 ●---● 定植期 ■ 収穫期

耐寒性に優れる冬どりの代表種

直緑93号

特 性

- 平坦地での1月～2月収穫の栽培に適する。
- 花蕾は円形で、色が濃くボリュームがある。
- 草姿は立性で、茎が太く、葉の色も濃い。
- 厳寒期の収穫では草姿はやや小ぶりになるが、花蕾は大きく締まったものになる。
- 耐寒性・低温肥大性に優れる。
- 厳寒期の栽培や花蕾肥大期の肥料切れにより花蕾に紫色(アントシアン)が着色する場合がある。



130日タイプ

100粒
小袋

20ml絵袋

しコート
5,000粒

2025年度
販売終了

栽培地	月	8	9	10	11	12	1	2	3
中間地		●	●			■	■		
平坦地		●	●	●		■	■		
暖地		●	●	●		■	■		

●---● 播種期 ●---● 定植期 ■ 収穫期

商品特性表

商 品	項 目	熟 期	草 姿	側 枝	頂花蕾の特性				収穫期の適性	
		播種後の日数 ※1			アントシアン	花蕾色の濃さ	重 量 ※2	粒の大小	春	秋・冬
プライム		90	半開	少	無	緑	350~400	小	△	○
すばる		95	半開	多	有	緑	350~400	小	○	○
ファイター		95	立	少	無	濃緑	400	小	○	○
まどか		105	半開	極少	有	緑	400	小	○	○
緑竜(りょくりゅう)		105	半開	少	有	緑	400	小	○	○
ルミナス(BL-652)		105	立	少	無	濃緑	350~400	小	—	○
アーサー		110	半開	少	無	緑	400	小	—	○
サミット		120	やや立	少	無	緑	400~450	小	○	○
改良緑炎(かいりょうりょくえん)		120	立	少	無	緑	400	小	—	○
深碧(しんぺき)		120	半開	少	有	濃緑	400	小	—	○
むつみ		125	やや立	並	有	濃緑	400~450	中	—	○
直緑93号(なおみどり)		130	立	少	有	濃緑	400	中	—	○
クリア		145	半開	少	無	緑	450	小	—	○
ともえ		145	半開	並	有	緑	450	小	—	○
すずか		200	立	少	有	濃緑	400~450	中	—	○

※1：平坦地・夏まき適期栽培 ※2：収穫適期（花蕾径12~14cm）での重量

天候・生育不良時の強い味方 発根生育促進液肥 GABA



(1kg 箱)

1 kg

10kg

数種類のアミノ酸系液肥をベースに、垂リン酸、クエン酸、フルボ酸、酢酸、海藻抽出エキス、糖類、微量元素（使用原材料12種類）を混合した液肥です。育苗・定植期も「発根・活着・伸長促進」と、収穫期までの「各種ストレスの緩和による品質・収量の向上」を目的とした究極のバイオスティミュラント資材です。



期待できる効果

- 発根・活着促進
- 根傷みの予防と改善
- 低温期の耐寒性改善による生育促進
- 高温乾燥時のしおれ予防と改善
- 日照量不足時の光合成促進
- アントシアンの発生予防と改善

など

使用方法

育苗・定植時：1000～2000倍希釈液の灌水又は葉面散布 2～4回/月

保証成分

窒素全量	1.6%
りん酸全量 (内水溶性りん酸 2.5%)	2.8%
加里全量 (内水溶性加里 2.3%)	2.8%
水溶性苦土	0.15%
水溶性マンガン	0.045%
水溶性ほう素	0.045%

含有微量元素分析例 (%)

マグネシウム	0.25%
マンガン	0.06%
鉄	0.05%
カルシウム	0.03%
ほう素	0.05%
銅	0.003%
亜鉛	0.003%
モリブデン	0.0015%



ブロッコリーについて

ブロッコリーは地中海沿岸部が原産地で、日本には明治時代に伝わりました。1980年代以降にブロッコリーの栄養価が認識され始め、作付面積も拡大し、急速に普及が進みました。それに伴い、さまざまな地域や季節での栽培・収穫を可能にするために、育種が進められました。弊社商品においても、周年供給に対応した栽培を容易におこなうために、播種後90日で収穫となる早生種から、200日で収穫となる極晩生種まで揃えています。また、花蕾に紫色（アントシアン）の着色が無いアントシアンレス種は、寒さの厳しい時期でもきれいな緑色のブロッコリーを収穫することができます。

ブロッコリーは緑植物春化型の作物で、株がある一定の大きさになってから一定期間低温に当たると花芽分化が始まり、その後収穫部位である花蕾の形成に至ります。早生種は低温感応に敏感で、晩生種になるほど鈍感になります。花芽分化の条件は、一般的に早生種で本葉6～8枚以上で19～22℃以下、中生種で本葉9～11枚以上で16～18℃以下、晩生種で本葉12～15枚以上で12～15℃以下となります。必要な低温遭遇日数は4～5週間程度と言われています。また、分化する花芽の数は低温に感応したときの株の大きさに比例します。ボリュームのある花蕾を収穫するためには、花芽分化までに株をしっかり作る事が大切です。

① 秋冬どり栽培

秋冬どり栽培はブロッコリーの生育特性に合った作型となります。年内収穫では早生種、年内から年明け収穫では中生種、年明け収穫では晩生種を使用し、適期に播種を行うようにします。

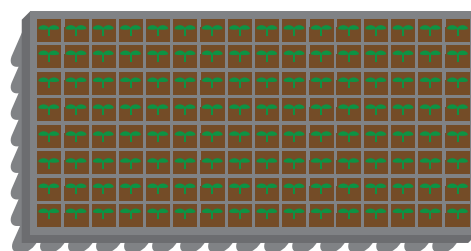
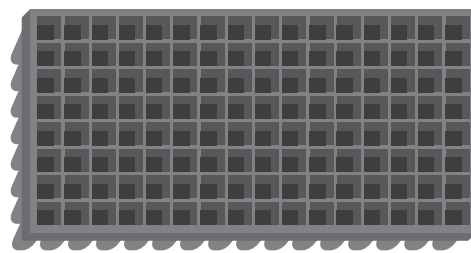
播種・育苗

播種・育苗には、地床育苗とセルトレイを利用した育苗があります。最近では栽培管理が容易なセルトレイでの育苗が一般的です。セルトレイの大きさは128穴が標準的です。播種用土には市販されている物理性の良い用土を利用すると便利でしょう。

播種後は十分に灌水を行い、発芽するまで用土を乾燥させないように注意します。特にコート種子はコート内の種子まで水分を行き渡らせるために、裸種子より多めの灌水が必要となります。発芽適温は20℃～25℃であるため、高温になる場合は遮光を行うなどして地温を下げるようにしましょう。

育苗には適正な水、温度、酸素、光を与えることが重要です。日当たり、風通しの良い場所で育苗を行うようにします。セルトレイは育苗棚などに置き、地面から30cm以上あけて風通しを良くし、健全な根の生育を促します。育苗中の灌水は1回の灌水量を十分に行います。少量で多回数の灌水は、苗が徒長しやすくなるため注意して下さい。夜間に過湿となると苗が軟弱徒長しやすいため、灌水は午前中に行うことを基本とし、夕方には表土が軽く乾くようにします。日中は温度が上がって過ぎないように十分に換気を行うとともに、強い直射日光を避けるために遮光を行います。晴天時の10～15時ごろを目安とし、過剰な遮光による苗の徒長に注意しましょう。

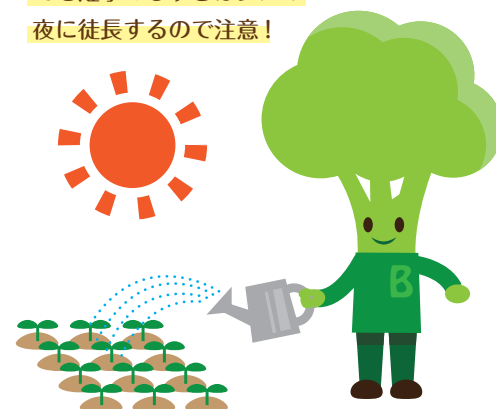
育苗期間中に苗の葉色が淡くなる、あるいはアントシアニンが発生するなど肥料不足の症状を示した場合には、必要に応じて液肥を施し、定植まで肥効を持続させて下さい。



本葉が出るまで乾燥しないように！

でも灌水のしすぎはダメ！

夜に徒長するので注意！



定植準備・定植

ブロッコリーは日当たりが良く、排水性の良い圃場を好みます。排水性の悪い圃場では高畝にするなどの排水対策が必要となります。堆肥は定植の約1ヶ月前に施し、苦土石灰は約2週間前に、化成肥料は約1週間前にまでに施します。早生種は栽培期間が短く、生育期間の気温も比較的高いため肥料が有効に吸収されます。気温が高い時期に収穫する作型では、窒素量が多いと草勢が強くなりすぎて花蕾形状の乱れ、粒の不揃いが発生しやすくなります。また、窒素過剰で微量元素のホウ素の吸収が阻害されると、茎の空洞症やカサブタ症状が発生することがあるので注意をします。晩生種は収穫までの期間が長く気温も低くなるため、早生種の場合よりも肥料を多めに施します。施肥設計は花蕾の品質に大きく影響します。土壌診断を行い、有機質肥料を利用するなどバランスの取れた土作りを行うことが重要です。

時期別施肥量の例

栽培条件	肥料	成分量 (kg/10a)		
		窒素 (N)	リン酸 (P)	カリ (K)
平坦地 秋冬どり 11月～12月上旬収穫	元肥	15	18	15
	追肥	3	—	3
平坦地 秋冬どり 12月中旬～1月収穫	元肥	16	22	16
	追肥	6	—	6
平坦地 秋冬どり 2月～3月収穫	元肥	18	24	18
	追肥	9	—	9
平坦地 初夏どり 4月下旬～5月収穫	元肥	15	18	15

※本表は栽培の目安としてご利用下さい。施肥量は前作の残肥や土壌条件によって異なります。施肥前に土壌診断を行い、診断結果に基づいて施肥量の調整を行って下さい。

※追肥は生育状況に合わせて分けて行って下さい。また窒素過多により品質を悪化させないように、草勢（葉色）に応じて調節して下さい。

定植の適期は128穴のセルトレイ育苗の場合で、播種後25～30日程度で本葉3枚前後となります。育苗期間が長くなり老化苗になると、定植後の活着が悪くなるため適期での定植を行いましょう。栽植距離は条間60～70cm、株間32～35cm程度を基準とし、10a当たり4,000株から5,000株程度を目安とします。栽植本数が多すぎると、風通しが悪くなることで病害が発生しやすくなります。また生育も不揃いになることがあるため、過度な密植は避けるようにします。高温時は高温になる時間帯を避けて定植を行うと活着が良くなります。定植後は灌水を行い、活着を促すようにして下さい。



定植後の管理

追肥、中耕、土寄せ、薬剤散布などを適切な時期に行い、健全な生育を促しましょう。1回目の追肥は定植から2～3週間後に、成分量で窒素3～4kg、カリ3～4kg程度を施します。追肥は一度に量を多くやるよりも、少量で回数を多くすると効果が上がります。2回目の追肥は、1回目から2週間後くらいに生育や葉の色を見て調節します。追肥と合わせて中耕と土寄せを行うと生育も促進され、除草効果もあります。中耕、土寄せは追肥時以外でも、降雨後に土壌が固くなり根への酸素供給が不足した場合など適宜行うようにします。ただし、株が大きくなってからの中耕は、根を傷めてしまい逆効果になる場合があるので避けて下さい。

病害虫は初期の予防を中心とした防除を徹底すれば被害が少なくて済みます。農薬の使用に関しては、用法や用量、登録の有無などを必ず確認して下さい。

収穫

花蕾の大きさ（直径）が12～15cmになった頃に収穫を行います。過熟になると花蕾の形状が乱れ、死花が発生する場合もあるので、適期収穫に努めます。ブロッコリーは花蕾の呼吸量が多いため、収穫後は品質低下が早い野菜です。気温の低い時間に収穫すると品質保持の点で有利です。気温の高い時期には品質保持のために予冷や保冷も必要となります。また、ブロッコリーは花蕾だけでなく茎の部分も栄養が多く含まれており、美味しく食べることができます。茎の皮の固い部分をむくと調理もしやすくなります。

② 初夏どり栽培

初夏どり栽培は、播種から生育初期にかけては低温期で、花蕾形成から収穫時期にかけては気温上昇期となります。ブロッコリーの生育特性上、栽培難度が高い作型になります。この作型では早生種から中生種が適していますが、早生種になるほど低温に敏感なため早期出蕾（ボトニング）への注意が必要となります。晩生種は生育期間が長いので初夏どりには不向きです。「すばる」、「ファイター」、「まどか」、「緑竜」、「サミット」がこの作型に適しています。

播種・育苗

播種時期が低温期になるため、地温を確保することが重要です。電熱線等を利用して加温を行い、苗床の温度が日中 20～25℃、夜間は 10℃以上となるように管理し、発芽を促します。育苗は日当たりの良い場所で行い、被覆資材を使用する場合にもできるだけ日光を遮らないものを使用します。低温、低日照は芯止り（ブラインド）発生の一因となるため注意をします。育苗日数は環境にもよりますが 40～50 日前後となります。本葉 3.5～4 枚程度になれば定植ができます。暖かい苗床から、気温の低い本圃に定植すると強いストレスを受けるため、活着の遅れや早期出蕾（ボトニング）の原因となります。苗床では徐々に温度を下げ、定植の 3 日前くらいには外気に当てて外の環境に馴らす作業を行うと良いでしょう。

定植準備・定植

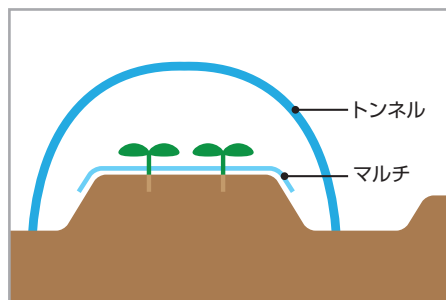
堆肥は定植の約 1 ヶ月前に施し、苦土石灰は約 2 週間前に、化成肥料は約 1 週間前までに施します。施肥量は栽培時期、前作の残肥等によって決めるようにします。元肥で 10a 当たりの成分量で窒素 15 kg、リン酸 18～20 kg、カリ 15 kg 程度を基準とします。マルチを使用する場合には定植の前日までに設置し、地温の確保を行うと活着の促進につながります。

平均気温が 10℃程度になれば無被覆での定植が可能です。定植後、気温が低い場合には早期出蕾（ボトニング）の危険があるので注意が必要です。地域によりますが 4～5 月に収穫を行うには被覆資材で保温をする必要があります。被覆栽培をする場合は、定植したその日のうちに被覆するようにします。栽植距離は条間 60～70cm、株間 32～35 cm 程度を基準とし 10a 当たり 4,000 株から 5,000 株程度を目安とします。



定植後の管理

生育初期は気温が低く、生育がゆっくりとなるため、この時期に停滞しないように管理することが重要です。老化苗での定植をさけ、植え傷みが少なくなるようにしましょう。定植後は必要に応じて活着を促進させるために灌水を行って下さい。灌水は日中の暖かい時間に行なうようにします。トンネル栽培の場合、内部の温度は 25℃以上にならないように換気を行います。栽培期間の後半は地温が上がり、肥料が吸収されやすくなります。花蕾肥大期に急激な肥効があらわれると、花蕾形状の乱れや蕾粒の不揃いが助長される場合があるので、追肥をする時は量が多くならないように注意して下さい。



収穫

収穫時期になると急激に気温が上昇してきます。後半の生育は早く、収穫の適期が短いため、遅れずに収穫を行いましょう。気温の低い午前中に収穫を行って、収穫物の温度を上げないようにして品質の保持に努めます。



一般社団法人
日本種苗協会®
 会員番号 24-023号



BL交配 株式会社 **ブロード**

〒514-2325 三重県津市安濃町田端上野1138

TEL 059(268)3262 FAX 059(268)3264

E-mail: info-seed@brolead.co.jp

URL: <https://www.brolead.co.jp>